

# おひさま訪問看護ステーションによる地域連携への取り組み

～在宅で求められている連携とは？～



昨今、在宅医療は、医師・看護師・リハスタッフ等医療職種とケアマネージャー、ヘルパー等介護職種を加えた多職種による連携強化が必要とされています。  
 ‘おひさま訪問看護ステーション’は、在宅における連携強化を目的に医療職と介護職が会する‘居宅介護支援事業所との連絡会’を開催しました。

‘居宅介護支援事業者との連絡会’の様子

7/21(火)13:30～15:00 開催

連絡会当日は、近隣の居宅介護支援事業所の内19の事業所、29名の方が参加されました。おひさま訪問看護ステーションの他に、在宅生活を継続する上で参考にさせていただくために、ソルヴィラージュ、ソルメゾンの2施設から取り組みを紹介、訪問栄養指導からも新たな栄養指導の取り組みを紹介しました。

## 連絡会のポイント

‘安心・快適な在宅生活’のために

### ソルヴィラージュ

増設した‘認知症フロア’における職員・設備・リハビリテーションの3つの取り組みを紹介。

### ソルメゾン

デイサービスとショートステイを活用していただくために⇒デイサービスとショートステイで行っているリハビリテーションやレクリエーション等の紹介。

### 訪問栄養指導

嚥下機能が低下したご利用者を事例に、それぞれの家庭の状況(調理能力や金銭面等)に応じた食事管理の提案を紹介。あくまで‘指導’ではなく‘サポート’する気持ちで行っていることを紹介。

### おひさま訪問看護ステーション

‘※ターミナル期’のプロセスに沿って、看護師の実施内容と連携ポイントについて紹介。



※ターミナル期:終末期ともいい、病気が治る可能性がなく、数週間～半年程度で死を迎えるだろうと予想される時期

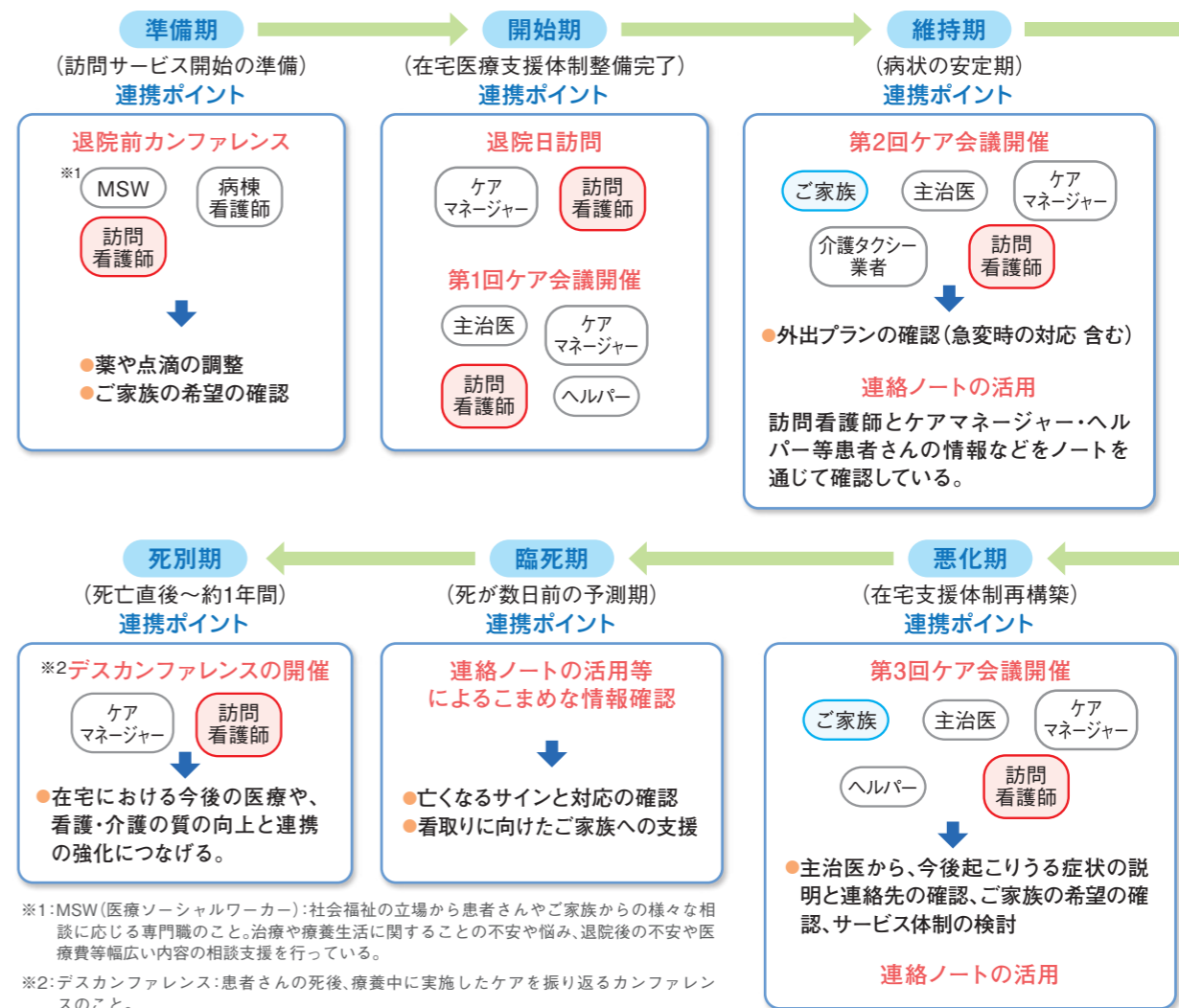
参加された  
ケアマネージャーより

訪問看護が主体ということで、特にターミナル期の連携事例が分かりやすく大変勉強になった。又、看護師とご利用者・家族・多職種との関わりが良く分かった。

## ターミナル期における連携ポイント

ターミナル期になると介護保険から、医療保険の扱いとなり、医療チームが中心となってケアにあたりますが、‘おひさま訪問看護ステーション’では、ケアマネージャーや、ヘルパーなどの介護チームとも常に情報を共有し連携をとりながら、ターミナルケアを行っています。

現在、「おひさま訪問看護ステーション」で行っている連携



## 居宅介護支援事業所満足度調査アンケートの実施

さらに、‘在宅における連携強化’という今後の取り組み・及び連絡会テーマの参考として、‘居宅介護支援事業所満足度調査アンケート’を行いました。

### 【結果(抜粋)】5点満点中の平均点

- ・訪問依頼のしやすさ ..... 4.6点
  - ・希望や相談に対する対応 ..... 4.5点
  - ・緊急時の対応 ..... 4.3点
- と‘おひさま訪問看護ステーション’に対して概ね高い評価をいただきました。

### 【‘おひさま訪問看護ステーション’への意見】

- ・ケアマネージャーに医療面での知識が乏しいので、ご本人・ご家族へ助言してほしい
- ・連携がとりやすいので助かる

### 【希望する‘連絡会’のテーマ】

- ・訪問看護導入のポイント、タイミングについて
- ・ターミナル期の対応



‘おひさま訪問看護ステーション’  
村松師長より

6月に実施した満足度調査や連絡会終了後のアンケート結果から、連携の必要性について再認識すると共に、ステーションの課題も見えてきました。課題については改善を行い、今まで以上に多職種の方々との連携を強化することで、ご利用者の在宅生活をサポートできるよう努めてまいります。